

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	藤山 正二郎
----	---------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

中国・新疆ウイグル自治区のウイグル民族についての文化人類学的調査を基礎として、具体的には、医療人類学、教育人類学、民族問題などの観点から研究している。10余年のフィールドワークの成果は<http://www7b.biglobe.ne.jp/~fsho2uyghurhotan/>で公開中。

ウイグル民族は中央アジアに連なるトルコ系民族であり、シルクロードの民として有名である。そこにはイスラム医学との関連をもつウイグル医学など、様々な文化が集積した独特の文化が存在する。だが、小学校から漢語教育が義務化され、自民族の言語であるウイグル語のあり方が問題になっている。この点から、多文化教育のあり方を考える。

医療人類学では西洋医学とは異なるウイグル医学を調査し、日本でも注目されている統合医療の方向性を探る。北京、上海などで中医学の調査も行っている。このような伝統医学は理論的な面で、陰陽や体液説など「哲学的」と思われ、「非科学的」と批判される。だが、伝統医学は近代西洋医学とは異なる科学的認識体系を持っている。そのことを明らかにしていく。

2. 研究業績

①著書・論文

<論文>

「ブリコラージュとしての伝統医学」福岡県立大学紀要、第19巻、第2号、2011

「ウイグル民族アイデンティティと民考漢の将来」福岡県立大学紀要、第18巻、第2号、2010

「ウイグル医療文化」シルクロード、19巻、2009、

「野生の思考としての伝統医学」福岡県立大学紀要、第17巻第2号、2009年

②その他の業績

ウイグル医学、ウイグルの結婚、ウイグルの家族・親族 「中国のイスラムを知る60章」所収、明石書店、2012

③過去の主要業績

「イニシエーションとしての思春期の病い」、病むことの文化—医療人類学のフロンティア、所収、海鳴社、1990年

「犠牲の物語の神話作用」、伝説が生まれるとき、所収、福武書店、1991年

「治療される家族—家族療法再考」、講座：人間と医療を考える、第4巻所収、弘文堂、1992年

「情報化社会と消費社会における病気—O157の退散祭り」、現代日本の病理所収、葦書房、1998年

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本文化人類学会、中央アジア学会

6. 担当授業科目

<学部>

文化人類学Ⅰ・2単位・2年・前期、文化人類学Ⅱ・2単位・2年・後期、国際共生研究Ⅰ・1単位・2年・前期、国際共生研究Ⅱ・1単位・2年・後期、教育人類学・2単位・3年・後期、社会学研究法Ⅰ・2単位・3年・前期、社会学研究法Ⅱ・2単位・3年・後期、エスニシティ論・2単位・3年・前期、医療人類学・2単位・4年・前期、卒業論文・6単位・4年・通年、

<大学院>

子育ての比較文化演習・2単位・大学院1・2年・前期、子育ての比較文化研究・2単位・大学院1・2年・後期、特別研究・4単位・大学院1・2年・通年

7. 社会貢献活動

福岡アジア文化賞推薦委員、NHK学園スクーリング講師、田川市石炭・歴史博物館運営協議会委員。

8. 学外講義・講演

福岡県立大学公開講座：地域と教育・子育て
～子どもから大人まで育ち合える地域をめざして～

9. 附属研究所の活動等

・生涯福祉研究センター兼任研究員